

## 古墳の副葬品

古墳の副葬品には、勾玉・管玉・白玉・小玉・切子玉などの玉類、耳環（イヤリング）、武具（弓矢、剣、甲冑など）、馬具、刀子、銅鏡など様々なものがあり、須恵器や土師器も多く副葬されました。乙塚古墳の副葬品はほぼ失われていましたが、これら近隣の古墳の副葬品よりも豪華な副葬品が納められていたことでしょう。



多治見市教育委員会蔵  
双龍環頭把頭レプリカ  
：狐塚古墳  
瑞浪市教育委員会蔵  
勾玉・直刀：南山3号墳  
銀環：津島古墳  
首飾り：大島1号墳  
恵那市教育委員会蔵  
金環：専行寺1号墳  
三輪玉：千田17号墳  
三輪玉  
みわだま



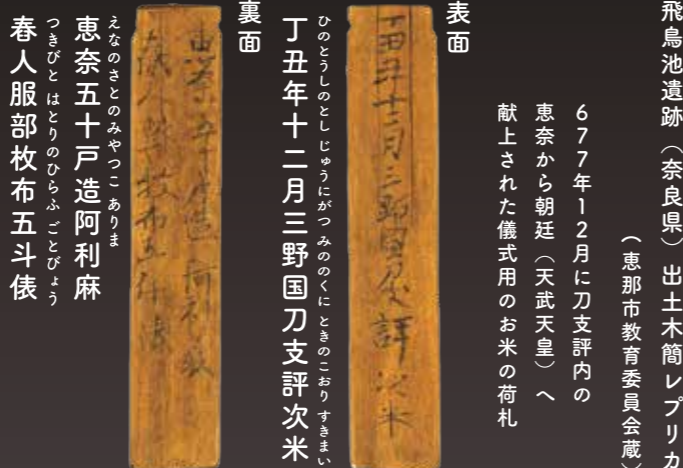
ちょうどうがめ 長胴甕  
丸池遺跡第2住居址出土（恵那市教育委員会蔵）  
隠のみ須恵器 甕  
こしき 甑  
かめ 甕  
かん 罎  
たかつき 高坏  
はそう 甕

## 暮らしの器

煮炊きや日用食器には土師器を使い、上等な食器や貯蔵用に須恵器も用いていました。当時の主食は米（うるち米）で、そのまま炊いたり雑穀を混ぜて粥や雑炊にもしましたが、甑を使って蒸したいわゆるおこわが食べられていました。この甑の登場により、煮る・焼くだけでなく蒸すという調理法が加わったため、魚、肉、野菜、山野草、木の実といった食材の食べ方、料理の幅に広がりがありました。

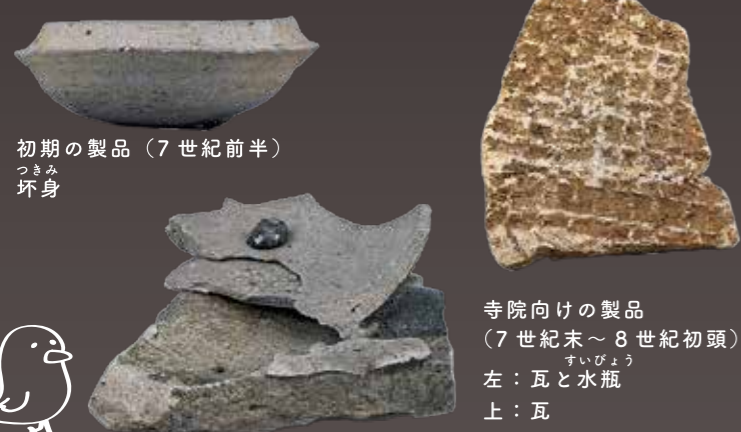
## トキの領域のその後

トキの領域は乙巳の変（645年）後の政治改革「大化の改新」によって「刀支評」となり、8世紀中頃までに「土岐郡」と「恵奈郡」に分けられました。「刀支県主」を名乗る一族も知られ、評を治めた豪族との関連が考えられます。政治改革と仏教の普及などにより、7世紀末頃までに古墳はほぼ造られなくなり、代わりに氏寺が建立されます。トキの豪族の氏寺と館、評衙（役所）は未発見ですが、乙塚古墳近郊にあったことでしょう。



飛鳥池遺跡（奈良県）出土木簡レプリカ  
（恵那市教育委員会蔵）  
677年12月に刀支評内の  
恵奈から朝廷（天武天皇）へ  
献上された儀式用のお米の荷札  
表面  
裏面  
ひのとうしのとしじゅうにがつみののくにときのおおひすまき  
丁丑年十二月三野国刀支評次米  
えなのさとのみやつこありま  
恵奈五十戸造阿利麻  
つきびとはとりのひらふことびよう  
春衣服部枚布五斗俵

## 隠居山須恵器窯の製品



初期の製品（7世紀前半）  
つきみ 坏身  
寺院向けの製品（7世紀末～8世紀初頭）  
左：瓦と水瓶  
上：瓦

## 須恵器窯と美濃焼の始まり

東美濃地域で最古の窯は、乙塚古墳の被葬者が導入に関わったと考えられる隠居山須恵器窯と清安寺須恵器窯です。器を窯で焼く技術が須恵器に始まり現在まで受け継がれていることから、この須恵器窯を美濃焼の始まりとしています。7世紀前半に畿内系の技術を導入して古墳の副葬品生産が始まり、7世紀末～8世紀初め頃には尾張の猿投窯から技術を導入して役所と寺院用製品が生産されました。

次回展示  
第1展示室：開館44年収集の軌跡！『○△□ 美濃桃山陶の形展』  
第2展示室：収藏品展『窯道具の使い方』  
開催期間 2023年6月10日（土）～9月3日（日）  
会場 土岐市美濃陶磁歴史館

土岐市美濃陶磁歴史館 土岐市泉町久尻 1263 TEL.0572-55-1245  
入館料：一般200円（150円）、大学生100円（70円）、高校生以下無料  
※障がい者手帳をお持ちの方および介助者1名まで無料 ※（ ）内は20名以上の団体料金  
開館時間：10:00～16:30（入館は16:00まで）  
休館日：月曜日、祝日の翌日

# 土岐市が誇る国史跡

# 遺跡はロマンだ！



OTOZUKA  
Ancient Tomb  
and its historical background

# 乙塚古墳とその時代

史跡整備完了記念

美濃地方最大級の横穴式石室を持つ大型方墳【乙塚古墳】、土岐市内最大級の円墳【段尻巻古墳】、飛鳥時代（7世紀前半）に造られた両古墳はヤマト王権による東美濃地方の支配の様子を考える上でとても重要な遺跡であることから昭和13年（1938）年12月14日に国指定史跡となりました。

土岐市では、乙塚古墳と段尻巻古墳を東美濃地域のみならず日本の宝として未来に向けて守っていくために令和元年度より史跡整備事業を進めてまいりました。その整備事業が令和4年度で完了することを記念し、本展では両古墳だけでなく、周辺の遺跡からの出土品や発掘調査の写真なども交えながら、乙塚古墳とその時代についてわかりやすくご紹介いたします。

会期：2023年3月4日（土）～6月4日（日）



## 乙塚古墳

乙塚古墳は、7世紀前半の大型方墳です。当時の大型方墳は、ヤマト王権と親しい地域の豪族に採用された特別な墓でした。乙塚古墳では墳丘の段築や葺石を省略する一方で、美濃国内の他の大型方墳と比べても同等以上の巨大な石室が造られています。石室内の再利用により副葬品はほぼ失われていましたが、土師器と須恵器の他、鉄製品片がわずかに見つっています。

### 方墳

南北 27.4m、東西 26.1m、残存高 5.8m  
段築なし、葺石なし、周溝なし

横穴式石室 全長 19.2m (美濃地方最大級)  
両袖式、胴張、玄門立柱石、まぐさ石  
礎床、排水溝、石材は主に花崗岩



発掘調査後 (第8次調査)



玄室の礎床 (第8次調査)



すえきとりつまみぶた  
須恵器鳥鈕蓋



鳥形つまみが付いた蓋です。東海地方でしか見られない特殊な装飾付き須恵器で、出土例も大変少なくとても珍しいものです。鳥の種類は不明ですが、死者の旅立ちを鳥に託したものと考えられています。



乙塚古墳と段尻巻古墳が造られた飛鳥時代(7世紀前半)は、ヤマト王権によって各地の領域再編が進み、律令国家へとつながる基礎が築かれた時代でした。東美濃地方には乙塚古墳の被葬者が治めた領域(後の刀支評・土岐郡)があったと考えられています。当時の領域名は不詳のため仮に【トキの領域】と名付けますが、その範囲は現在の多治見市(土岐川以南)、土岐市、瑞浪市に加え、恵那市と中津川市の大部分を包括する広大な領域でした。



## 段尻巻古墳

段尻巻古墳は、乙塚古墳と同時期の円墳です。市内の他の同時期の円墳と比べても大きく、乙塚古墳に埋葬された豪族と関わりが深い有力者一族の墓に相応しいものです。石室内は部分的な発掘しか行われていないため、見ついている副葬品は、須恵器と土師器のみです。なお、乙塚古墳ではほぼ失われていた石室の礎床がとても良好な状態で残っていました。

### 円墳

直径 23.9m、残存高 4.1m  
段築なし、葺石なし、周溝なし

横穴式石室 全長 9.5m  
疑似両袖式、玄門立柱石、まぐさ石  
礎床、石材は主に花崗岩



発掘調査後 (第9次調査)



前庭部~羨道の礎床 (第9次調査)

はじちちょうけいこ  
土師器長頸壺



丁寧に精製された粘土で作られた土師器の長頸壺です。近畿地方の古墳などで出土が知られていますが、岐阜県内では類例がなくとても珍しい発見といえます。被葬者と近畿地方との強い関係性がうかがえる遺物です。



## トキの領域と古墳の分布

【6~7世紀の古墳分布と地区の検討】  
古墳分布から推測される領域内の各地区は、後に成立する行政区であるサト(五十戸/里/郷)の前身になったと考えられます。試みに平安時代に書かれた「倭名類聚抄」等から知られている土岐・恵那郡の郷名を当てはめると、概ね合致することがわかります。

地図:「岐阜県CS立体地図2019」©岐阜県森林研究所を元に作成  
<https://www.geospatial.jp/ckan/dataset/cs-2019-geotiff>